



「丘の上に立ってござらっしゃるお方は、
いったい、どなたでござんしょう。」

新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

あらすじと解説

昔、ある村の丘に高名な詩人ハンスを讃える銅像が立てられた。しかし、年月が経ち、彼の名を知る人はほとんどいなくなってしまう。その頃、人々は伝染病に苦しんでいたが、ヘンデルという医者によって救われる。そこで、人々はハンスの銅像にごひげをつけてヘンデルの銅像に替えてしまう。その後も銅像は、戦争で活躍した指揮官ベテロと愛馬の像に、さらに地主

の家に入った強盗とそれを追い払おうとした忠犬ナハトの像へと姿を変えていく。いかに銅像を立て誇ろうとも個人の名声は儂いものだ。ついに銅像は錆つぶされ教会の鐘となる。そして美しい音色となって初めて人々の心に届くのだった。

▶▶ 新美南吉記念館学芸員 遠山光嗣

絵

Kaori Hiei

イラストレーター ウェルカムボード、オリジナル作品の制作、雑誌の挿絵など幅広く活動中。心を明るくするイラストを目指して。
<http://kaoriillustration.jimdo.com>

●絵について 「年月とともに忘れ去られ姿を変えていく丘の銅像。物語から形は変わっても変わらないものがあること、大きな視点でものをみる大切さを感じました。絵に銅像がたどる運命をしのばせ、大きな視点で描いてみました」